

FOA-NEWS

通算第36号

2015/12/30

第5回 IFAF アメリカンフットボール 世界選手権アメリカ大会報告

七久保 裕哲

7月9日～18日に米国オハイオ州カントンで開催されたIFAF世界選手権大会に、関西からの高倉明仁さんと私の2名が参加しました。振り返れば、“初めて”ということが多く、貴重な経験をさせていただいたと思います。

開催地であるカントンは、2009年にU-19が開催されたところで、プロフットボールの発祥の地、試合会場は、Tom Benson Stadium Hall of Fame Stadiumでした。オーストラリア、ブラジル、日本、フランス、メキシコ、アメリカ、韓国の7カ国が参加、審判は15ヶ国から27人が、スーパーバイザーであるBill LeMonneirさんのもとに集まり、4日のゲームディで各日3試合、計12試合を行いました。さらに、シャドウプログラムと称し、勉強のためにミーティングなどに参加するケニアと中国からのメンバーも参加し、総勢40名ほどの審判団となりました。宿舎は全チーム、全スタッフ、全審判がウォルシュ大学でした。

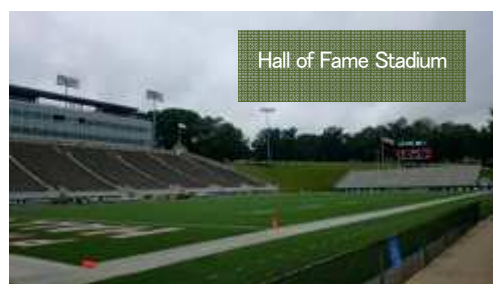
開催予定地であったスウェーデンストックホルムの辞退、参加予定であったカナダの辞退が影響して、当初は8人制4クルー、32名の予定であった審判員数は過剰となり、7人制への審判員数削減という話まで出ましたが、最終的には前述の15カ国27人で、8人制を行いました。開催の3カ月前には審判団専用ウェブサイトが開設され、それを通じて、ビデオやクイズなどのトレーニングツールや、宿泊、渡航に関する情報が提供されました。さらには、肖像権や名前の公表等に関する許諾書、負傷した場合の補償・免責に関する同意書などを電子署名で提出しました。



Game Day 3 第3試合 USA-FRA 戦クルー

担当ポジションは各自1または2ポジションが割り振られました。8ヶ国参加予定だった時点の私のポジションはR/BJで、高倉さんはRでした。事前に各自のポジションについてヒアリングされて、SWと答えていたにもかかわらず、RとBJが与えられていましたので、LeMonneirさんが5月に来日された際に、

私をBJにした理由を尋ねたところ、堅いメンバーをセンターラインに入れたという返事でした。審判団の出身国から読み取れるように、今大会の審判レベルはかなり広いことが予想できました。フットボールの普及を視野に入れた取り組みによるものと思います。ヨーロッパのメンバーが半数いるにもかかわらず、日本人2人をRに入れていただけたことから、LeMonneirさんが日本の審判に対して評価されていることをここでも実感することができました。私自身は、RとBJであれば、初っぱなからRはないだろうから、他の人のRを見て、様子をうかがうこともできるし、2つのポジションを大会で楽しむことができそうだと少しのんきに考えていました。ところが、カナダの辞退が状況を変えてしまいました。審判員の人数調整のため、アメリカからはAlex Barinagaさんだけとなり、LeMonneirさんの言う堅いメンバーが減ってしまいました。結果的に高倉さんはCJ、私はRというポジションがアサインされました。(諸事情で高倉さんはCJを1回も担当しませんでした・・・)他のRは、IFAFのルールをまとめているJim Briggsさん(イギリス)と今大会審判団キャプテンに指名されたノルウェーのEinar Bolstadさん(ノルウェー)でした。



ルール

IFAFルールということでしたが、実際にはNCAAルールとIFAFルールが混在して運用されました。例えば、試合後半に発生したTGTによる資格没収は、IFAFルールでは次のゲームに持ち越しませんが、NCAAルールでは次の試合の前半まで持ち越しという違いがあります。この大会ではNCAAルール通り、次の試合に持ち越しとなりました。アメリカや日本がNCAAルールで行っていますので、この2つのルールに大きな差があることは好ましくないと思っています。

中2日のスケジュール

中2日のスケジュールで試合が組まれました。試合2日前(試合の翌日)は試合のビデオレビュー、前日はクルーごとのプリゲームミーティング、そして試合当日という流れをGame Day 4まで繰り返しました。

試合2日前のビデオレビューは、午前中に全員が宿舎のウォルシュ大学にある小劇場に集まり、LeMonneirさんがピックアップしたプレーを見て、ルール、メカを確認しました。日本でのLeMonneirさんのクリニックと同じような進め方でした。ピックアップされたプレーは、各クルーにリストになって配信されたので、ビデオレビューの後にも自分の試合を確認することができました。いつもの通り、LeMonneirさんには褒められ、指摘され、勉強になりました。このレビューミーティングの終わりには、次の試合のアサイメントが発表されました。また、この日の夕方あるいは夜には、USA Footballが手配してくれたレクリエーションがあり、地元のマイナーリーグ観戦やプロフットボールの殿堂見学などに行くことができました。



全体ミーティング

試合前日は、各クルーでプリゲームミーティングが行われました。特に時間は決められていなかったのですが、結局は夜7時からと定常化しました。内容は各Rに任せられ、私のミーティングは、各国から派遣されているメンバーであることから、ルールやメカニックのベーシックな話ではなく、コミュニケーションのやり方を重点に置いて打ち合わせしました。オフェンスがファーストダウンを取ったらどのように教えてくれるのか、INGの時はどのようにRに伝えるのか、GLメカニックの時にどのように合図して確認するのか、コミュニケーションのために使っているシグナルなどを確認しました。メンバーみんなが積極的に参加してくれて、コミュニケーションもはかどり、ミーティングは速やかに進行することができました。Game Day 2のプリゲームミーティング以降は、前の試合からピックアップした担当チームのプレーを確認したりして、約1時間程度の内容を行いました。(私の空き時間の大部分はビデオのチェックに使っていました。)

残念ながら、私は他のクルーのミーティングに参加する機会はありませんでしたが、高倉さんによると、罰則の施行などの手順を確認したミーティングもあれば、与えられた宿題をそれぞれのメンバーが発表して、長時間となったミーティングもあったそうです。

プリゲームミーティングの会場は、クルーごとにキャンパス内の建物だけが伝えられ、その中の空いている教室を使えという、いかにもアメリカ的な運用でした。教室は他の団体が使

用していて空いておらず、空いている部屋を探し回り、しかたなく美術室で行ったことも、いまでは良き思い出です。大学の職員に勝手に使うなど怒られたりしたクルーもあったようです。

8人制

ほとんどのメンバーが8人制を経験したことがないなかで、8人制を行ったというのが実際のところでした。初めのうちはちぐはぐなところもありましたが、徐々に慣れてきて大会後半にはスムーズになってきたと思います。

ボールデッド中のR-U-CJ間のコミュニケーション/コンビネーションに注意すれば、ランプレーではプレー後方でのアクションに対するカバーも厚くなり、パスプレーではSWの負荷を軽減し、ベルトゾーンのカバーができ、さらにパスプロテクションでのOHやHTFやRPSなどを多方向からカバーできることになります。現在のフィールドを広く使い、多くのレシーバーを出す戦術に対しては良いメカニックだと実感しました。いきなり全試合というわけにはいかないと思いますが、関東審判部でも徐々に導入してほしいなと思っています。



夜のレクリエーション中

リプレー

この大会ではリプレーが採用されました。リプレーオフィシャルはLeMonneirさんがされました。(LeMonneirさんが用事で不在の時は、BarinagaさんかBriggsさんが担当しました。)当初は、TGTと得点に関わるプレー(TDかどうかなど)だけが対象であるという話でしたが、大会が進むにつれ、パス成功/不成功などもリプレーの対象となっていました。トランシーバ(次項)を通じてLeMonneirさんからの「リプレーするから止める」という指示が入り、リプレーが行われました。フィールドのクルーからの要請によるリプレーは、私のゲームでのTGTだけで、他はLeMonneirさんの判断によるものでした。私が担当したUSA-FRA戦でコールされたTGTは、USAのパントで、USAのプレーヤーがカバーでダウンフィールドに降りていったところで9-1-4を犯したものでした。(Uがコール。)プレー終了後、自動的にリプレーとなり、リプレーの結果は、「Confirmed(ビデオでジャッジが正しかったと確認)」でした。TGTをLeMonneirさんに報告する際、まず聞かれたのが9-1-3と9-1-4のどちらがコールされたのか?でした。フィールドでの判断をビデオで確認するだけ、つまり9-1-4のコールであれば、9-1-3であったかどうかはリプレーで判断せず、9-1-4であるかどうかを確認するだけです。フィールドでの判断を正しくリプレーオフィシャルのLeMonneirさんに伝えることが大切でした。そのため、Rだけでなく、コールした審判員もLeMonneirさん

に報告するようにしました。また、リプレー オフィシャルがリプレーの対象となるものは何であるかをしっかりと理解していなければならないことも最も重要なことのひとつだと感じました。

ちなみに、リプレーの判定を待っている間の私は、英語でどのようにアナウンスするかということで頭がいっぱいでした。



クルー内無線

試合中、審判員8人とリプレーの LeMonneir さんをトランシーバーでつなげました。全部で9台です。単純な 1 way トランシーバーでしたが、相互通話ができるようなものよりもシンプルで通話も短くなり、扱いやすいと感じました。R の私は、右からクルーのトランシーバーのマイク、左から場内放送用のマイクと、口元には2つのマイクが来ているという、かなりわずらわしい格好となってしまいました。のど元のマイクが好みなのですが、イギリスの Briggs さんにごり押しされてイヤホンマイクを装着することになってしまいました。

トランシーバーによるコミュニケーションは、私が想像していたものよりも良いものでした。想像していた使い方は、反則の報告や罰則の選択を伝達すること程度でした。しかし、実際の試合では、BJ の Barinaga さんが私の想像が陳腐であったことを教えてくれました。

最初の試合 AUS-KOR で、プレーが終わると、「Clock on the snap(スナップで計時開始)」あるいは「Clock on the ready(シグナルで計時開始)」という声が BJ の Barinaga さんから入ってきたのです。これは非常にやりやすかったです。他のこと(たとえば、人数確認)を行いながら、計時開始のことが確認できました。日本では他のことが終わってから、クルーと目を合わせて計時のタイミングを確認しますが、その時間を省くことができました。また、同じ試合で KOR の QB が後方にドロップバックしたままラッシュにあい、そのままダウンフィールド遠くにボールを投げました。すると、BJ の Barinaga さんから「No receivers in the area (投げられたボールの方向にレシーバーはいなかった)」と声が入ってきました。その声のおかげで、QB はタックルボックスを出ていなかったことを確認して、すぐに ING がコールできました。



USA - FRA 戦セレモニー

また、LeMonneir さんからは、試合中にもトランシーバーを通してスーパーバイザーとして声をかけていただきました。「グッド コールだった」、「時間をとってゆっくりやれ」、「水を摂れ」などの声かけはクルーにとって励みであり、自分たちのペースを崩すことなくオフィシエティングができました。このような声かけは、新人などの教育にも使えると思いました。(声をかける側の技量が必要ですが・・・)



試合前タイムテーブル確認中



控室



試合前の
ボーダーパトロール

TGT 発生！／メディア対応

USA-MEX 戦での TGT では、リプレー以外にも出来事がありました。

リプレーの結果をアナウンスした後、USA がすぐにチームタイムアウトを取りました。HC が R と話をしたいと要求され、サイドラインに呼ばれました。HC が R と話(抗議)をするためにタイムアウトを取るというのは、日本の HC にも見習って欲しいことだと、高倉さんと感心していました。ただし、呼ばれて、話してきた内容は・・・、

「何の反則で資格没収になったんだ？」(私の心の中: TGT ですって……)

「ビデオ レビューして確認するべきだ」(私の心の中: レビューしましたよ。自動的にレビューすることになっていて、反則だと確認しましたよ。)

「こんな接触が反則だなんて、フットボールじゃない！オレは 30 年以上フットボールを見ているが初めてだ」(私の心の中: ルール、毎年変更になってますし……。)

(私)「コーチ、申し訳ありませんが、彼の行為は反則です。レ

ビューでも確認しました。ゲームに戻りましょう。」とお伝えし、抗議は終了となりました。LeMonneirさんがコーチと不正なフォーメーションについて話をしているサイドライン マネジメントのビデオを思い出し、対応することができました。このタイムアウトの後には、何も言うことがなかったので、さすがだなと思いました。

試合が終了し、控室に戻ると、次はメディア対応が待っていました。記者会見場に呼び出されました。記者は1人だけだったので安堵しましたが、質問は TGT についてでした。LeMonnierさんが私の横についてくれましたので、安心して対応できました。質問はどのような反則だったのかとか、どのような接触だったのか、資格没収は次の試合に持ち越すのか？など、Rの私には答えられない質問がほとんどでした。初日の会議で、メディア対応については、自国のメディアなどに対して節度ある対応は OK、ただし、対応した場合には報告することと必ずボイスレコーダー(スマホ)で録音することとなっていました。この記者会見でも、LeMonneirさんの iPhone がデスクの上に置かれて、記者のボイスレコーダーと対峙していました。



ハプニング1

審判団が宿泊する建物は日本チームのメディカル スタッフ ルームとメキシコチームと同じでした。その建物のボヤ騒ぎ(火災報知器作動)が大会中に2回ほど起こりました。1回目は7/8の夕方。プリゲーム ミーティングから宿舎の建物に戻ってきたら消防車が集まっていて部屋に戻れなくなっていました。原因はメキシコの選手が電子レンジでポップコーンを加熱しすぎて、焦がしてしまったせいでした。2回目は、7/14の夜中。寝ようとしているところをたたき起こされ、1時間半以上外で待機となりました。消防車到着に30分以上かかりました。メキシコチームは、翌日の日本戦に影響があったかもしれません。原因は不明で、メキシコ選手の部屋からという噂でした。

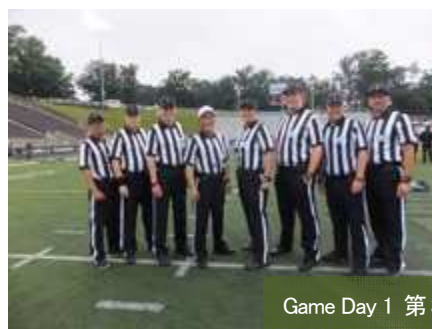
ハプニング2

Game Day 1 の前日、いわゆる審判団としての初日にある情報が流れてきました。メキシコチームの全員がヒップパッドを持っていない……。そのまま参加を認めるのかどうするのかという騒ぎになりましたが、判断は IFAF に任せることになりました。メキシコチームはなんとかヒップパッドを手に入れて試合に登場しました。

Game Day 1、いよいよ USA チームが登場しました。ESPN3 のライブもあり、スタジアムは盛り上げようという雰囲気が出てきました。しかし、ユニホームを見ると……。青のジャージに青の番号……。ルール違反じゃない？……。運営判断でそのまま参加となりました。

Game Day 3、日本チームにとっては一つ目の山場、メキシコ

戦です。日本選手を見ると……。おや？、タオルが黒い……。(-;-) QB を初め、数名のプレーヤーが黒いタオルを着けていました。審判団からは誰からもコメントされませんでした。翌日、ウォルシュ大学キャンパスで私と高倉さんが高田選手らに会ったときに、大会記念タオルと交換することを提案しましたが、その後交換するタイミングがなく、彼らは黒いタオルを付けて決勝戦に出ていました。トレーナーからのプレゼントだったらしいです。



Game Day 1 第3試合クルー

ハプニング3

Game Day 1 の第3試合 USA-MEX 戦の R であったノルウェーの Einar Bolstad さんが歯痛によって NG となり、急遽高倉さんが第3試合の R に入ることになりました。直前の交代だったにも関わらず、高倉さんは無事 R を務められました。ただ、一度だけ罰則のアナウンスで、「十ヤード ペナルティ」と日本語が飛び出し、その場にいた日本人はびっくりしました。ちなみに、CJアサインであった高倉さんは、CJを一度も担当せず、残りの試合は BJ、SJ、FJ でした。ユーティリティとしてアサインされてしまいましたが、裏を返せば、それだけ LeMonneir さんから信頼されている証拠だと思います。

ハプニング4

チェックアウト日、私が空港に行くバスの時間は昼 12 時過ぎだったので、午前中をかけてゆっくりと荷造りをするつもりでした。ところが、9 時半くらいにハウスキーパーがやってきて、部屋は 10 時までとなっているから出ろと。そのような話は聞いていないと拒否すると、ウォルシュ大学のスタッフ、その次には IFAF/USA Football スタッフがやってきて、退室を求めてきました。なんとか 30 分で荷造りを行い、退室するときには、LeMonneir さんと Barinaga さんまで来てしまいました。話によると、10 時退室が前日の夜に口伝えで一部の人には伝わっていたようです。最後の最後まで LeMonneir さんにご迷惑をかけてしまいました。韓国の Shin さんは、スタッフが声をかけたときにはまだ爆睡中だったそうです。

最後に

振り返ってみれば、最初から最後までドタバタしていた思いがありますが、2 週間弱という短い時間の中で今までに経験のないことが経験でき、他国の審判との友好を築くことができ、貴重な経験となりました。実際のオフィシエイティングは上手いところもあれば、ミスしたところもあり、まだまだ向上しなければとあらためて感じました。大会参加に当たり、IFAF 審判窓口として手続きから交渉まで様々にご尽力いただいた伊藤義樹さん、大会をご一緒いろいろとご助言いただいた関西審判

部 高倉明仁さんを初め、関東審判部のみなさまに援助いただき、心から感謝を申し上げたいと思います。この経験を活かして、恩返しをしていきたいと思っています。ありがとうございました。

審判出身国と人数

国	人数
オーストラリア AUS	3
ブラジル BRA	2
イギリス GBR	2
チリ CHL	1
デンマーク DNK	2
フィンランド FIN	1
フランス FRA	1
ハンガリー HUN	2
日本	2
メキシコ MEX	2
ノルウェー NOR	1
ポーランド POL	2
韓国 KOR	2
スウェーデン SWE	2
アメリカ USA	1

日時		スケジュール
7/7 (火)		チェックイン
7/8 (水)	10:00	ミーティング メンバー紹介 スケジュール・Game Day 1 のアサイメント (7/1 に発表済) 宿泊・会場について シャドウ プログラムについて メディアへの対応
	13:00	ミーティング 8 人制メカニク及びルールについて リプレーの手順 ゲーム ビデオの閲覧方法 レポート、ゲームカードについて 国際審判組織について、他
	19:00	Game Day 1 プリゲーム ミーティング(クルー別)
	21:00	ウェルカム BBQ
7/9 (木)		GAME DAY 1
7/10 (金)	10:00	Game Day 1 Video Review / Game Day 2 アサイメント発表
	18:00	マイナーリーグ観戦
7/11 (土)	19:00	Game Day 2 プリゲーム ミーティング(クルーごと)
7/12 (日)		GAME DAY 2
7/13 (月)	10:00	Game Day 2 Video Review / Game Day 3 アサイメント発表
	12:00	プロフットボール殿堂見学
7/14 (火)	19:00	Game Day 3 プリゲーム ミーティング(クルーごと)
7/15 (水)		GAME DAY 3
7/16 (木)	10:00	Game Day 3 Video Review / Game Day 4 アサイメント発表
	20:00	バブ ツアー
7/17 (金)	19:00	Game Day 4 プリゲーム ミーティング(クルーごと)
7/18 (土)		GAME DAY 4
	22:00	慰労会
7/19 (日)		チェックアウト

2015 SWC のビデオを YouTube に保存してあります。 (※オーストラリアのチームが撮影した映像)

2015 SWC D1G1 AUS SK
 2015 SWC D1G2 FRA BRZ
 2015 SWC D1G3 USA MEX
 2015 SWC D2G1 SK BRZ
 2015 SWC D2G2 FRA AUS
 2015 SWC D2G3 USA JPN
 2015 SWC D3G1 AUS BRZ
 2015 SWC D3G2 JPN MEX
 2015 SWC D3G3 USA FRA
 2015 SWC D4G1 AUS SK
 2015 SWC D4G2 MEX FRA
 2015 SWC D4G3 USA JPN
 ※2015 SWC Aus Cam D1G1 AUS SK
 ※2015 SWC Aus Cam D2G2 FRA AUS
 ※2015 SWC Aus Cam D3G1 AUS BRZ

<https://youtu.be/bsDX0sxDEXk>
<https://youtu.be/uIHZxDskqSU>
https://youtu.be/-qyC_8KjZ8A
<https://youtu.be/ESeEDhnQYpY>
<https://youtu.be/BL3AMIH6j80>
<https://youtu.be/nxcFTTf0Tyc>
<https://youtu.be/6U72fus0DdQ>
<https://youtu.be/TJATXl-uYVE>
<https://youtu.be/Eixclv7ocaE>
<https://youtu.be/uyV4kHZilWg>
<https://youtu.be/8Lvb6fYipVk>
<https://youtu.be/80CQAQIFdqU>
<https://youtu.be/SS6snVKNINI>
<https://youtu.be/vetX6LzzN2c>
<https://youtu.be/t3gLQQqnOLk>

クルー アサイメント

	第1 試合	第2 試合	第3 試合
	AUS – KOR	FRA – BRA	USA – MEX
7/9	R 七久保 裕哲 日本 U Marcelo Sampaio BRA C Mario Matos MEX H Zsolt Harangi HUN L Felipe Rosa BRA B Alex Barinaga USA S David Cardenas CHL F Frank Rasmussen DNK	R Jim Briggs GBR U Davie Parsons GBR C Ivan Veronica MEX H Veikko Lamminsalo FIN L Gyula Udvardi HUN B Kris Walentynowicz POL S Jeffrey Batzler SWE F Martin Mikkelsen DNK	R 高倉 明仁 日本 U Dariusz Leoniak POL C David Sinclair AUS H Shaun Dove AUS L Klas Leido SWE B Paul Mercer AUS S Kyung Chang Shin KOR F Juan Perez Canto FRA
7/12	KOR – BRA R 七久保 裕哲 日本 U David Sinclair AUS C Klas Leido SWE H Martin Mikkelsen DEN L Shaun Dove AUS B Paul Mercer AUS S Juan Perez Canto FRA F Alex Barinaga USA	FRA – AUS R Einar Bolstad NOR U Marcelo Sampaio BRA C Ivan Veronica MEX H Zsolt Harangi HUN L Felipe Rosa BRA B 高倉 明仁 日本 S Kyung Chang Shin KOR F Intae Kim KOR	USA – 日本 R Jim Briggs GBR U Davie Parsons GBR C Mario Matos MEX H Veikko Lamminsalo FIN L Gyula Udvardi HUN B Kris Walentynowicz POL S Jeffrey Batzler SWE F Frank Rasmussen DNK
7/15	AUS – BRA R Jim Briggs GBR U Davie Parsons GBR C Mario Matos MEX H Juan Perez Canto FRA L Gyula Udvardi HUN B Kris Walentynowicz POL S Intae Kim KOR F David Cardenas CHL	日本 – MEX [Semi-Final] R Einar Bolstad NOR U David Sinclair AUS C Dariusz Leoniak POL H Martin Mikkelsen DNK L Veikko Lamminsalo FIN B Alex Barinaga USA S Jeffrey Batzler SWE F Frank Rasmussen DNK	USA – FRA [Semi-Final] R 七久保 裕哲 日本 U Ivan Veronica MEX C Klas Leido SWE H Zsolt Harangi HUN L Felipe Rosa BRA B Paul Mercer AUS S Shaun Dove AUS F 高倉 明仁 日本
7/18	AUS – KOR [5th Place Match] R 七久保 裕哲 日本 C Ivan Veronica MEX U Dariusz Leoniak POL H Zsolt Harangi HUN L Felipe Rosa BRA B Kris Walentynowicz POL S Jeffrey Batzler SWE F David Cardenas CHL	MEX – FRA [Bronze Medal Match] R Jim Briggs GBR U David Sinclair AUS C Klas Leido SWE H Veikko Lamminsalo FIN L Shaun Dove AUS B Alex Barinaga USA S 高倉 明仁 日本 F Intae Kim KOR	USA – 日本 [Final] R Einar Bolstad NOR U Davie Parsons GBR C Mario Matos MEX H Martin Mikkelsen DNK L Gyula Udvardi HUN B Paul Mercer AUS S Juan Perez Canto FRA F Frank Rasmussen DNK

TASO クリニック派遣報告

阿部浩司

7 月 23 日～27 日にかけて、TASO(TEXAS ASSOCIATION of SPORTS OFFICIALS) クリニックに伊藤義樹さんと参加しました。関西審判部からは大藤さん、村上さんが初参加されました。

今年の開催場所はダラスカーボイズの本拠地の AT&T スタジアム、テキサスレンジャーズの本拠地のレンジャーズパークスタジアムの近くに位置するアーリントンコンベンションセンター&シェラトンホテルで 24 日、25 日の 2 日間開催されました。

私は初めてのアメリカ本土ということもあり緊張した派遣でもありました。23 日にダラスに入り夕方からダットソン・ルイス氏とお会いし翌日からのクリニックの講師の情報などミーティングしその後食事をしました。86 歳とは思えないほど食欲があり大変お元気でした。また食事をしながら来日された時の思い出話などで盛り上がり楽しい時間を過ごしました。

【クリニック】

今年の TASO の参加者は約 1000 人。

TASO の理事は PRESIDENT: Tommy Moore 氏に代わりました。

・7 月 24 日 (金)

① 11:00～12:30 TRAIN THE TRAINERS 講師 WISE

内容：ルール変更、メカニック変更を中心のクリニック

② 午後からはルイス氏からの勧めで 2014 年にデビジョン優勝した Texas Christian University と Southern Methodist University のフットボールスタジアムを見学。



Dotson Lewis 氏

・7 月 25 日 (土)

① 8:00～9:00 Football Rules Jeopardy 講師 WISE

内容：ゲーム形式でのルール問題

② 9:00～9:45 Rules Q&A 講師 WISE

内容：ビデオを使つての Q&A

③ 10:00～10:30 TASO Football Business Meeting 司会 Tommy Moore

内容：TASO メンバーの表彰など

④ 10:30～12:00 2015 NCAA Rules Changes 講師 Rogers Redding

内容：2015 年ルールチェンジの説明

⑤ 13:00～17:30 BREAKOUT SESSION # 1, # 2, # 3

内容：14 のセッション (表 1 参照) の中から各自 3 セッションを自由選択しクリニックを受けます。

私は以下の 3 セッションを受けました。

- ・UMPIRE CREWS OF5 講師 COOPER
- ・BLOCKING RULES 講師 ALLEN
- ・RULE 10 講師 KELAREK



アンパイヤクリニックの会場

・2 日間で印象に残ったクリニックは以下のとおりです。

- ① 私の専任ポジションでもあるアンパイヤのセッション。特に講師の COOPER 氏の講義のやり方に関しては参考になりました。そのやり方とは Q&A 方式で反則の例題が出されその罰則施行をアンパイヤ全員で声を出して答えるやり方でした。回答をする中で一人決まって間違えて答えを言う審判がいて (写真で手を挙げている方) アンパイヤ全員から野次が飛びかう一面もあり楽しいクリニックでした。今後アンパイヤのポジション別クリニックなどに採用していければ良いかと思いました。



- ② 2 日目の朝 8:00 からやりましたパネルクイズ形式で 3 チームに分け得点を競うクリニックです。担

当講師である WISE 氏の解説も非常に楽しくかつ解りやすく早朝の頭の体操には丁度よいセッションかと思いました。



Texas Christian University Stadium にて

【コミュニケーション】

TASO クリニック 2 日目の午後からのセッション別のクリニックで TASO の審判から声をかけられ決まって「日本でフットボールは盛んかどうか」「以前日本に行ったことがあって日本は良いところだ」という事を言われ、またクリニック会場の冷房が効きすぎて私だけウインドブレーカーを着ていたら「具合が悪いのか」「大丈夫か」と心配してくれる方もいらっしゃいました。アメリカ人の優しさと温度感覚の違いを知る一面でした。

またレディング氏の 2015 年のルール変更・解説が終わった後では TASO の審判がレディング氏のところに来て質問をする中、お土産の FOA ポロシャツと昨年とんかつ屋で食事をした時の写真を渡しに行きましたら特に食事の写真に話が盛り上がり TASO の審判が質問する大切な時間を割いてしまいました。またクリニック終了後には PRESIDENT の Tommy Moore 氏とも話すことが出来、以前ボウルゲームで日本に来た事を懐かしく話して下さいました。



Rogers Redding 氏

【総括】

今回 TASO クリニック派遣で感じたことですが TASO で使用しているビデオは関東審判部で使用しているものと同じものもあり TASO の講師によってはビデオ解説など関東審判部の方が時間をかけて丁寧に教えていると感じるところもありましたが、クリニックの運営（方法）の仕方などは関東審判部ではやっていないこともあり非常参考になりました。これもクリニックに携わっております教育担当理事やインストラクター委員の方々に感謝いたします。また現地ではレイス氏や、TASO のスタッフの皆様にはいろいろとお世話になりこれも長年に渡

って人間関係を作って頂いた先輩の方々、また今回このようなチャンス頂きました理事会の皆様への感謝の言葉をもちまして今回の報告とさせていただきます。



Tommy Moore 氏

《参考資料 表 1》

(表1) ●BREAKOUT SESSION		
	セッション	講師
1	RARE PENALTY ENFORCEMENT	WISE
2	BLOCKING RULES	ALLEN
3	KICKING GAME	KNETIG
4	PASS INTERFERENCE	YOUNG
5	REFEREE CREWS OF 5	ADAMS
6	UMPIRE CREWS OF 5	COOPER
7	BACK JUDGE CREWS OF 5	ERNEST
8	HEAD LINESMAN CREWS OF 5	TBD
9	LINE JUDGE CREWS OF 5	HOLT
10	REFEREE MICROPHONE AND SIGNALS	CHAPPELL
11	DEAD BALL OFFICIATING/	MCLAIN
12	ON-FIELD COMMUNICATIONS	FECCI
13	OVERTIME	SASSER
14	6 MAN FOOTBALL	BOYER